「多様性に富んだ緑豊かな「おきなわ」のために」

沖縄県　農林水産部　森林緑地課
企画調整班長　諸喜田　正行

沖縄は、訪れてみたい土地として常に上位にある。
年間600万人弱が訪れる国内有数の観光・リゾート地となっている。その魅力は何処にあるのだろうか。沖縄は、照葉樹の織りなす緑、青く広がる海、爽快な青空が特徴である。
かつては琉球王国として栄え独自の文化を育んでいた。戦後の米国統治に伴う西洋文化の流入により新たな混合（チャンプル～）文化を形成している。このことも一因であろうが、地の人々のホスピタリティも特筆されている。

沖縄文化は多様であり、言語、音楽、芸能、芸術、食、建築、生活様式など枚挙にいとまない。
この地の文化は島ごとに変質する。それは、それらを育む土地の自然や歴史、人々の営みを異にすることにある。
異文化の地としての沖縄には、他にも多様性に富むものがある。
それは、生態系であり、生物多様性つまり自然である。
豊かな自然に恵まれた地、そこで育まれた文化、そこに生きる人々、このことが沖縄の魅力であり訪れる要因であろう。
この地の魅力にとりつかれた者は再び訪ね来るのである。

衣・食・住、人が生きるにあたって不可欠な要素であるが、精神にとっては安寧が必要である。安らぎや潤いなど、心の豊かさは緑が醸し出し、緑の総量が社会の豊かさを示すのではなかろうか。
社会にとっての緑は、緑地であり森林である。個人とすれば、樹木であり庭であろうか。家と庭があって家庭となる。
家庭は、家人にとって安らぎの場であり憩いの場である。
庭の緑、人は猫の額といえども樹や花を育てこれを慈しんでいる。
それは、自らの欲するところであり、他人に対する思いやりや生き物への優しさでもあろう。
緑の存在や緑との関わりは人の心を豊かにしてくれるのである。

さて、沖縄の島々にはそれぞれの緑が生い茂り、様々な緑たちが島の生物相、環境、文化、産業、生活を特徴づけている。
一方で、島ごとに異なる環境や産業、生活がそれぞれの島の緑を形づくっている。

異なる緑の中で、最大の緑地は沖縄島北部と八重山の森林である。やんばると称される北部の森林地帯は、古の時代から土地の人々の生活を支え続けてきた。八重山もしかり、他の島々にしてもまた同様である。水、食料、燃料、資材など、これら森林の恩恵を享受し、生かされて今日がある。

往時、人と森林の関わりは睦まじく、利用にあたっても畏敬の念も持ち合わせていた。森林は多くの生き物の住み処であることを忘れることはなかった。時代とともに、人々の生活や価値観も変わり、森林との付き合いも大きく様変わってる。
しかし、これだけは言えるだろう。人は森林なくして生きていくことはできない。否、種の一つとして、森林あっての存在だと。

地球環境の保全が叫ばれる昨今、人類は温暖化にどう対処するのだろうか。低炭素社会の実現に向けて、官民挙げて取り組んでいる。
我ら、森林・林業・緑に関わる者として、いま何を成すべきか。
林業の振興はもとより、防災、生活環境の保全のみならず、自然環境の保全、今や地球環境の保全をも施策として展開すべきと心得る。
銀河に浮かぶ地球という名の星に生きる無数の生物の一つとして、慎ましく存在することを望もう。
でも私達には、やるべきことがある、できることがある。
まずは足下の一歩から。緑を植え、育て、増やし、守ることを始めよう。
この多様性に富んだ緑豊かな「おきなわ」のために。

〔全島緑化県民運動〕
県では、100年先を見据えた緑づくりを目指し、花と緑で、潤いと安らぎのある「緑の美ら島」の創世を図るため、県民総ぐるみによる「全島緑化県民運動」を実施しています。
昨年度は、「一島一森(いちしまいちむい)づくり活動」として、県下17地域において、地域住民との協働による植栽等を行っています。
今年度は、新たに各地の風景にふさわしい花木や草花の植栽を行う地域の緑化活動の支援等の「うまんちゅ協働の花と緑の美しい島づくり事業」を展開することとしています。

沖縄森林管理署の皆様におかれましても、国有林野の保続培養とともに、地域ににおいて、１個の種・１本の苗をお願い申し上げます。